|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **（１）原子力災害の知識** | 指導時期等 | 主な指導場面 | 指導資料 |
| No | 必ず身に付けさせたい事項 | 具体の指導内容 |
| ① | 原子力災害について，基本的内容を知る。 | 1) | 原子力災害とは，原子力施設の事故や故障などによって放射能や放射線が異常な水準で外部に漏れることである。 | →　 | 教・行 | ・[「放射線について考えてみよう」　小学生のための放射線副読本](http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/attach/1314118.htm)　　（文部科学省）・[放射線等に関する副読本](http://radioactivity.mext.go.jp/ja/contents/1000/131/view.html)(文部科学省)　 |
| 6) | 人が被ばくする経路には，①原子力施設から放出された放射性物質からの放射線による体外からの外部被ばく，②呼吸や放射性物質により汚染された飲食物を摂取することによる体内からの内部被ばくがある。 | →　 | 教・行 |
| 7) | 被ばくをできるだけ少なくするための方法としては，風向きを考慮し原子力施設から離れる。屋内に退避するなど，体に受ける放射線を少なくすることが基本である。 | →　 | 教・行 |
| ② | 放射線の人体に対する影響について，基礎的な内容を知る。 | 1) | 人体が放射線を受けることを被ばくといい，自然放射線等により体外から被ばくすることを外部被ばく，放射性物質を含む空気，水，食物等を接種することにより体内から被ばくすることを内部被ばくという。 | ○　 | 教・行 |
| 2) | 宇宙や大地，空気，食べ物から受ける「自然放射線」は年間約１．５ミリシーベルトである。 | ○　 | 教・行 |
| 3) | エックス線など人工的に作られた放射線を「人工放射線」といい，胃・胸部エックス線撮影で被ばくする量は0.05～0.6ミリシーベルトである。 | ○　 | 教・行 |
| 4) | 100ミリシーベルト以上の放射線を受けると発がんリスクが上昇することは分かっているが，100ミリシーベルト未満の低い放射線を受けることで，がんになるかどうかについては，科学的に証明することが難しい。 | ○　 | 教・行 |
| ③ | 原子力災害が発生したときの地域住民の初期行動の仕方を知り，被ばくを少なくできるようにする。 | 3) | 屋内退避などの指示があったら，自宅や職場，最寄りの公共施設などに避難する。ドアや窓を閉め，換気扇を止めて外気を遮断する。屋外ではハンカチ等で口をふさぎ，浮遊性の放射性物質の吸入を防ぐ。屋内に入ったら顔と手を洗う。 | 　　→　 | 教・行 |
| ④ | 原子力災害時における医療面の対応について知る。 | 5) | 原子力災害が発生したときには，放射性物質による汚染や被ばくによる不安感等から情緒不安定等の心の問題の発現が予想され，心のケアを適切に行う必要がある。 | ○ | 教・行 |
| 6) | 学校等では心のケア体制を整備し，学級担任，養護教諭，スクールカウンセラー等及び学校医や校外専門機関との連携体制をつくり適切な対応を図る必要がある。 | ○ | 教・行　 |

指導時期：**○**機会を捉えて指導する時期，**→**継続指導の時期，**◎**重点的に指導する時期，**◇**再確認させる時期

指導場面：**教**＝教科等，**H**＝HR等，**行**＝学校行事，**部**＝部活動等，**日**＝日常

凡

例